

# コーチング・コミュニケーション研修へ参加して

相模原病院 勝俣 寛成

私は2022年4月1日より国立病院機構相模原病院の主任薬剤師に昇任しました。前施設である国立国際医療研究センター病院では従事した3年間、薬務業務を勤め、多くの医薬品の発注や在庫管理といった貴重な経験をさせていただきました。ただ、主な業務として対物業務が多かったために、現在勤めている相模原病院では病棟業務関連の主任を務めていることから対人業務が主となったこと、初めて主任となったことで部下、そして上司との円滑なコミュニケーションをとることができるのか等といった不安を抱えておりました。そのような時にコーチング・コミュニケーション研修の案内が届きました。研修に参加することで現在抱えている不安も解消され、円滑なコミュニケーションスキルを身に付けることができるのではないかと思います、当研修に申し込みました。

研修はコロナ禍の現状からオンラインによるテレビ会議で行われました。後輩または上司に求められる役割について、報告・連絡・相談（以下、報連相）について、後輩を指導するにあたって必要なコミュニケーションといった様々な内容について株式会社インソース 小嶋ゆみ先生よりご講義いただき、それぞれの項目において各班へ分かれてグループワークを行いました。各班のグループワーク、班ごとの発表を行い、自分の考えと他のメンバーの考えを共有し合いました。その共有の時間では、共感しあえるような意見があり、また新しい考えを知ることができるなど大変有意義な時間であり、とても勉強になりました。そして、このグループワークがとても楽しく与えられた時間も一瞬で終わってしまうほどに感じました。

内容の濃い研修でありましたが、私が特にこの研修に参加して良かったと思ったことは、後輩を指導するにあたり必要なコミュニケーション方法について知ることができたことでした。後輩は一人ひとり上司に求めていること、してほしい考えは異なります。例えば、後輩のことを思って注意をしたり叱ることについて、人によっては叱咤激励になる反面ハラスメントと感ずることもあります。また、手助けについても人によっては嬉しく思う人もいればおせっかいと感ずる人もいます。このように後輩の要望に応えることができるのか、後輩が求めていることについての的外れな行動をしていないか、自分の詳しくない領域について助けを求められたらどうしよう等、私は後輩を指導することに様々な不安を感じていました。班内で意見を共有すると誰しもが後輩の指導について不安に思っている、むしろ他の人の意見を聞いて新たな不安に気づいてしまうこともありました。後輩への指導について不安が積もる中、講義では後輩への「褒め方」「叱り方」にも様々なポイントがあり、そのポイント次第で後輩の成長にも関係悪化にもつながることを学びました。後輩の求めに全て応じることは大変難儀なことでありますが、日頃から後輩とコミュニケーション、特に報連相を心掛けることで一方通行な関係にならないことが重要ではないかと思ひ、今後の後輩育成の際に活用していきたいと思ひました。

最後になりますが、コロナ禍のなか本研修を開催にご尽力いただいた先生方、講師の小嶋ゆみ先生、本研修への参加にご協力いただいた相模原病院薬剤部の皆様に心より御礼申し上げます。